

平成30年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立本宮高等学校

I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

○『学校経営・運営ビジョン』（A4版）別紙1

校長の学校経営に関する方針及び重点事項を決定し、項目ごとに各部署に関連のある項目について目標を設定して作成した。

○教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

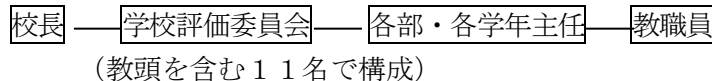
「学ぶ力を持ち、心豊かで心身ともにたくましく、社会に貢献できる自立した人間」の育成を目指す教育の実現という目標のもと、2つの重点努力事項を設け、具体的な指導の手立てについて明確に打ち出すことで、目標の実現を図った。

○組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

重点努力目標の実現に向けた小項目が各部の目標となり、学校評価委員会が整理し運営ビジョンの原案を作成した。これを受けて、運営委員会・職員会議を経て完成した。

2 校内組織体制について

○組織図



○組織作成のねらい、意図

教頭・教務主任・教務部所属の教諭3人の計5人を自己評価にあたる実務担当者、また各学年より2人を集計・分析担当者という位置づけで組織した。

3 自己評価年間計画について

○年間計画

別紙2のとおり

○作成のねらい、意図

「学校経営・運営ビジョン」に基づく取り組みについて、教職員・生徒・保護者対象のアンケート調査を年間2回実施し、それぞれ結果の分析とともに中間評価・最終評価を行い、指導の改善に資する。

○自己評価年間実施状況

第1回アンケート調査 7月18日実施

第2回アンケート調査 12月12日実施

II 評価結果の概要

1 実施方法等

アンケート調査を実施した。結果については、別紙3のとおり。

2 アンケート及び回答数

評価	第1回アンケート			第2回アンケート			
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合	
教職員	42	38	90.5%	42	39	92.9%	
教	生徒	442	426	96.4%	437	426	97.5%
職	保護者	442	393	88.9%	437	410	95.5%
員							
以							
外							

コメント：第2回の保護者のアンケート回収率は第1回を大きく上回り、保護者の意識向上がみられた。生徒・保護者については概ね良好な評価であったが、教師側との意識の差があった項目もあり、今後の課題となった。

3 評価基準について

評価	4	3	2	1
評価基準	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全く思わない

コメント：質問項目を精選して、回答への便宜を図っている。質問項目をあまり変えずにある程度同じにしたことで、変化を読めるように配慮した。保護者が学校や生徒の実態を十分に把握できていないとも考えられる回答が見られた。

4 年度末評価のまとめ

○年度末評価実施の目的、意図

アンケート調査結果に基づく年間反省を実施することで、次年度の学校経営の改善を図る。

○年度末評価結果の分析及び結果概況（別紙4）

教職員の評価においては、中間評価から年度末評価が向上している項目が見られ、実際に指導にあたっている教職員が課題意識を持って指導にあたらうとしている状況があらわれている。

○重点努力事項に対する達成状況等

人間性・社会性の育成

→ あいさつや清掃等についてはとてもよい状況である。課題としてはSNSによるトラブルが多発し、規範意識の醸成が課題である。

進路指導の充実

→ 就職については景気状況にも恵まれ、希望者は100%目標達成できた。進学については基礎学力の定着、学力試験による合格が課題である。

○分析に基づく改善の方向

規範意識の醸成を図るために積極的情報モラルについての指導を推進する。

丁寧な学習指導を実践し、基礎学力の定着を図る。

III 広報の概要

○目的や意図

- ・アンケート結果を全保護者に配付することで、評価活動への理解を促すとともに、教育活動に対する協力を要請するため。

○実施計画及び実施状況

- ・年間2回のアンケート結果を印刷物として配付する。
- ・保護者へ「ふくしま教育週間における授業参観」のお知らせをする。併せて当日に学校評議員会を開催。

○配付対象、配付時期、配付方法等

- ・年間2回（9月・2月）
アンケート結果をすべての保護者に生徒をとおして配付する。
- ・10月上旬
生徒をとおして保護者へ配付する。

○実施してみたの反省等

- ・ふくしま教育週間における授業参観等の取り組みについては、参加者が少なかったことから、周知の方法が課題である。

IV 次年度に向けて

○評価結果の特徴、自己評価実践の成果等

- ・アンケート結果の数値（保護者）はおおむね良好であるが、学校教育活動の状況をさらに周知する活動が必要と考えられる。
- ・授業の評価については生徒と教師間の開きが少なくなり、授業の工夫に一定の効果が表れてきたと感じる。

○自己評価全体の次年度の取組みについて

- ・ビジョンについては、校長の経営方針をベースに広く教職員の意見を募り、大幅な改訂を行う。
- ・組織の編成、年間計画の作成については、今年度の実践を踏襲しながらも、更なる工夫改善を図る。

○次年度へ向けての課題、改善点、重点努力事項、展望など

- ・保護者は進路指導の成果を高く評価していることから、学校側としても基礎学力の定着を目指した指導を展開することで、一層の成果を残したい。
- ・生徒は、授業に対する要求が高い傾向が見られる。わかりやすい授業の工夫改善が今後とも課題である。

○終わりに

- ・今回のアンケート結果及び学校評議員からの評価を真摯に受けとめ、学校教育全般に関する取り組みの工夫と改善に努めたい。